

防災用井戸ハンドポンプ

国内用デザイン一新

新デザインのハンドポンプ



日さく

日さく(さいたま市大宮区、若林直樹社長、048・644・3911)は、防災用井戸に取り付けるハンドポンプのデザインを一新し、今春に提案を始める。性能は従来のままに丸みを帯びたデザインを施し、地下水の掃き出し口を可変型にするなど機能性を高めた。地方自治体や企業向けに防災用の「枯れない水源」に必要な機器として訴求し、販売拡大につなげる。

日さくはもともと海外向けのハンドポンプを国内でも販売していたが、より国内市場に合った外観に改良。東京都立産業技術研究センターの協力を得て柔らかいイメージのデザインに仕上げた。カラーはブルーを標準色に顧客の要望に応じる。

埼玉工場(埼玉県鴻巣市)で製造する。材料の鋼管は従来のように特注品ではなく、規格品での製作が可能となった。そのため材料を調達する際の手間が省け、コスト削減につながる。また従来デザインのハンドポンプも引き続き販売する。

日さくのハンドポンプはベローズ(蛇腹)の伸縮により地下水をくみ上げる独自の方式を採用しており、最大深部50㍍の井戸に対応。蛇腹構造から地下水に異物が混入しても排出しやすいため、故障しにくいのが特徴だ。コンパクト設計で動力源が要らず、限られたスペースで設置することができる。

日さく東日本支社の菊池賢一営業部長はハンドポンプの販売を通じ「避難所でのトイレの流し水や手洗い、洗濯などの水源として活用できる防災用井戸の価値を全国に広めていきたい」と意欲を燃やす。(さいたま)